

与那国の言葉や伝承採録

与那国島出身の女性、和歌嵐香（わからんこ）・N子さん（1954年生）
「北海道在住」が書き溜めてきた島の言葉や風習、伝承などを採録したデータベース「与那国島の生物文化データベース」がウェブ上で公開されている。Nさんは、島の高齢者から受け継いだ風習や信仰を独自のアートとして絵画に描き続けており、その一部を抜粋してNさんが自身の思いとともにまとめた画文集「ぬていぬかーら どうなん いのち湧く島・与那国」も発行された。

出身者 和歌嵐香・N子さん

「N」とは、編者の安溪 フアベツト。遊地氏による遊地山口大学名誉教授（人と、Nさんは、幼いころ類学・地域学）が調査結果を公表する際にこの女性を知り、季節の変化などを感じて適切な助言する「む表すために用いてきたアル」とうかはまい」の役割を

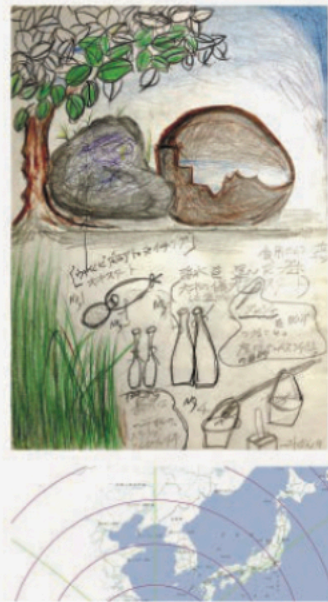
Dunan 与那国島 Yonaguni Island 與那國島

与那国島の生物文化データベース
Biocultural Database for Yonaguni Isl.
與那國島的生物文化數據庫

与那国島に1954年に生まれたNさんが、島のお年寄りから託された島の言葉と伝承の数を4000の言葉とたくさんの絵で記録しました。自然への感謝と祈りに埋めつくされた日々の中から、忘れてはならない未来への遺産もみつかるはずです。

Ms. N, born in 1954 in the Yonaguni Island, was entrusted by the island elders to record the language and the customs of the island. She used the form of 4000 words and 300 drawings to record them. From these valuable recorded materials, which reflect the islander's constant gratitude and invocation to Nature, one finds the treasure heritage of the island which should be maintained for years to come.

1954年生於與那國島的N女士，受該島長老們信託，將該島的語言及傳承記錄成4000個詞句和300個圖片。這些資料反映島民對自然的感恩與祈禱，從此我們不難窺見不可遺失、永續不斷的與那國島遺產。



データベースをウェブで公開

担ってきた。画文集では、島の宇宙観や生命観につながる部分を中心に抜粋した。

安溪氏と妻の貴子氏はN子さんと30年余りの付き合いがあり、N子さんから送られてくる作品を保管してきた。これらの作品は、同プロジェクトメンバーの渡久地健氏（地理学）が選り、鑑賞の手引きを添えて画文集に収録している。

データベースと画文集は、総合地球環境学研究所のLINKAGE（リンクージ）プロジェクトの一環として作成・出版された。データベースは、N子さんが収集した約4000の与那国語を、日本語、英語、中国語で説明している。N子さんが語ったり、歌ったりする様子を収録した動画もアップし、島独自の文化や言葉を多様な手法で伝えている。

N子さんは画文集のなかで「昔々から人が植物にいかん支えられてきたかがわたしの生涯の研究テーマ」と記し、木との対話を通じて「（切っても）いいよ」と承諾を得てから使用するなどと、自然との向き合い方の一端を説明している。



与那国島の生物文化データベースのQRコード

循環する生命観描く

N子さん画文集

「ぬていぬかーら どうなん いのち湧く島・与那国」



和歌嵐香・N子さんの画文集「ぬていぬかーら どうなん いのち湧く島・与那国」

クバの葉を木にしぼり付いて雨水を貯める知恵や、島民が長雨に苦しんでいた時、長老の知恵で生の竹を燃やして寒さをしのいだ伝承などには、独特のタッチで描いた作品が添えられて

山語（八重山方言）と与那国語（与那国方言）は「重大な危機」にある言語に分類されている。画文集に関する問い合わせは seika@ankei.jp。 （松田良孝通信員）

「火は、ありがたいものですが、敬いと崇りを忘れたら、すべてのいのちを飲み込んでしまいます」。N子さんが警句を発する言い回しは独特だ。「土は削られ、海もアスファルトや何やらに埋められようとしています。（中略）島のもっている『力』を越えるようなものを入れようとしています。このままでは、島は沈む」。与那国島の行く末に不安を隠さない。島の言葉に対するこだわりが長い時間かけて『た

「火は、ありがたいものですが、敬いと崇りを忘れたら、すべてのいのちを飲み込んでしまいます」。N子さんが警句を発する言い回しは独特だ。「土は削られ、海もアスファルトや何やらに埋められようとしています。（中略）島のもっている『力』を越えるようなものを入れようとしています。このままでは、島は沈む」。与那国島の行く末に不安を隠さない。島の言葉に対するこだわりが長い時間かけて『た

（松田良孝通信員）